

lexis.com Legal Research 講習会参加報告

藤田 恵子

1 はじめに

平成13年11月29日(木)、30日(金)の2日間にわたり、関西大学図書館・法学研究所共催、レクシス・ネクシスジャパン(株)後援による「lexis.com Legal Research 講習会」が行われた。この講習会ではWeb版データベースLEXISを使用して、実践的なサーチスキルの向上を目指すことを目的とし、英米法の基礎知識修得から課題実習までが集中的に行われた。以下この研修について、アメリカ法を中心に報告したい。

2 LEXISを使う背景

世界の法律制度は、大陸法系と英米法系に大きく分かれる。日本やドイツは法律制度の基礎を成文法に置く前者に属する。一方アメリカは、イギリスと共に判例法主義(common law system)が特徴の後者の中心国である。法律オンラインデータベースであるLEXISの膨大な情報から、求めるものを漏れなく検索するためには、LEXISを使いこなす技術以前に、法律文献についての体系を理解しておかねばならない。

アメリカの法律資料はそれぞれ相対的に異なっており、拘束力を持つものもあれば、別の資料を探すためにしか使わないものもある。判例要旨(digest)や引用書(citator)等の検索ツールのほか、以下の2つに大別できる。

(1) 第1次資料(primary sources)

連邦や州における最高裁判決や法律、行政規則などで、法的拘束力があり、これらによってアメリカの法秩序が形成されている。

(2) 第2次資料(secondary sources)

判例や制定法などの解説や分析、またその分析によって判例法の原則を提示する文献など、第1次資料に関連するもの。この第2次資料を活用することによって、ある連邦最高裁判決について判例法上の位置付けや評価、あるいは法律の解釈問題の解決などを合理的に行うことができる。論文集、基本法律書、リステイメント(restatements)などがあり、

中でも影響力があるのは法律雑誌(law review)である。

先にも述べたようにアメリカ法は判例法主義をとるゆえ、判例が重要な法源のひとつとなる。しかし、判例は決して単独では存在しない。まずその判決が下級審の判決である場合には、その後、上級審でどのような判断を受けたかを追跡調査しなければならない。最上級審の判決後でも、その判決は後の判決で覆られるかもしれない。つまり最新の判例の状態を追い続ける姿勢が必要である。

1つの判決が、それを取りまく判例法の流れの中でどのような位置にあるかを把握するのは、膨大な量ゆえ困難である。主要な法律雑誌の判例評釈を読んで調査対象をより狭めていくと、合理的・効果的に判例を理解することができる。

このような特色を持つアメリカの法律制度における必要文献を探すために、従来多様な検索書が出版されてきたが、データベース化されたLEXISはとりわけ有用なツールである。

3 LEXISについて

LEXISは米国LEXIS-NEXIS社がWeb上で提供している世界最大級のリーガル情報データベースで、本学では学内LANに接続されたパソコンで利用可能である。⁽¹⁾学外からであれば、まずLEXIS社のウェブページにアクセスし、IDとPWを用いてログインする必要がある。⁽²⁾

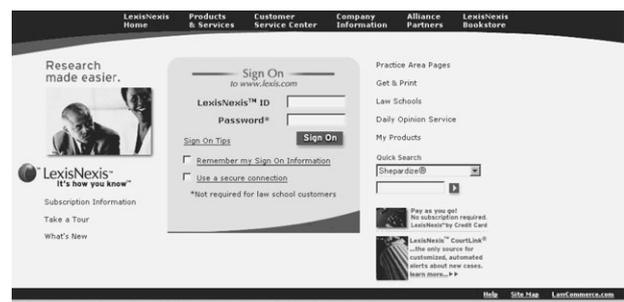


図1 : lexis.comのログイン画面
http://www.lexis.com/

LEXISは米国連邦および州の法令、規則、判例はもちろん、世界各国の法令・判例をはじめ、主要な地域の特許・ローレビューなどの法律関連文献まで幅広く提供している。検索の種類として次の4つを使うことができる。

(1) Search ^{図2}

目的とする情報が含まれる分野から検索する場合で、まずソース(ファイル)を選択することから始まる。アメリカは、連邦と50の州から成り立つ国家で、51の法域(jurisdiction)を持ち、連邦と州の法律制度は異なる。つまりある項目について調べる際、それが連邦法の問題であるか、州法の問題であるかの判断が必要になってくるのである。



図2 : lexis.comのsearch画面

LEXISでは①マークを使って、そのソースの情報を確認でき、セグメント等を使って効果的に検索できる。結果はCITE、KWIC、FULL、CUSTOMの4種類のフォーマットで表示できる。また「FOCUS」機能を使って絞込みをかけたり、「More Like This」機能で類似文献を探すことも可能である。

(2) Search Advisor

法律的な観点から第2次資料を検索するための機能である。予めリストアップされたトピックから簡単に選択できる。

(3) Get a Document

LEXSEE、LEXSTATを使って「Citation(サイテーション番号)」、「Party Name(訴訟当事者名)」や「Docket

Number(訴訟事件簿番号)」からも即座に必要なドキュメントを取り出すことが可能である。

(4) Check a Citation

総合的な判例・法令の引用履歴や第2次資料の調査が可能で、次の4つの機能を持つ。

Shepard's

アメリカの判例の引用履歴と判決の状況を提供している。サイテーションをもとに特定の裁判の審級ごとにおける経過や、後の事件における典拠としての価値づけなどを調べることができる。検索結果には、判例の評価を確認できるシグナルが表示されているので、見た目にはわかりやすい。また、上記(1)や(3)で得られたドキュメントの画面の「Shepardize」のタブから直接引用関係を調べることができる。

Table of authorities

あるケースに対し、サポートしている引用判例の各々に対しても一度に を適用することができる。

Auto-Cite

ある特定の事件についての全審級履歴、ある判例について、他の判例集で使われている別のサイテーションを調べることができる。また、選択した判例の価値を弱めたような判例や、選択した判例が否定的なインパクトを与えた判例を表示することができる。

LEXCITE

重要な第1次資料を探す手がかりにもなる第2次資料から関係する論文を検索し、その判例の重要性についての情報を得ることも可能である。

法律文献の中で引用されている複雑な略号を把握するためには、引用形とその使用法についての適切な案内書が不可欠である。The Bluebookは法域毎に各法域で使われる資料の解説付略号表や引用法リストを多く載せているので、併せて使うとよい。

4 おわりに

毎年下される多数の判決、毎年制定される数多くの制定法や行政規則を通じて、アメリカ法は絶えず変化している。このような変化に対応するためには、法律文献・資料の内容を常に最新のものにしておく必要がある。コンピュータでできる検索だけが有効でなく、紙媒体のツールが場合によって適正な手段であることは法律分野の検索に限らず、情報検索という意味では全ての分野において言えることである。しかし、このLEXISを使うと、判例から引用したも

のを調べるだけにとどまらず、類似した文献を探したり評価を知ることができるなど、ひとつの判例について奥深く追求できる可能性は無限に広がる。使いこなせば、ますますこの包括データベースの必要性を感じてしまうような、有用な情報の宝庫である。

また、世界各国の法律分野でのデータの量は言うまでもないが、企業情報や人物情報、新聞記事などビジネス情動的な内容まで包括しているので、ぜひ訪れていただきたい。

今回の講習会では、検索方法を学ぶと同時に、「なぜその検索が必要なのか」という利用者の立場に立った思考回路をいくつか知ることができ、レファレンス業務に携わる人間として、大変有意義であった。今回知り得たことを、今後の業務に生かしていきたい。

注

- (1) 【関西大学図書館ホームページ】の【ネットワーク情報源】を開き、【行政資料・法令・判例】からアクセスできる。

<http://www.kansai-u.ac.jp/Library/netresource/nwlink.html>

参考文献

モーリス L. コーエン, ケント C. オルソン著 山本信男訳

『入門アメリカ法の調べ方』東京 成文堂 1994

加藤敏幸 [他] “Web版 LEXIS(法律オンラインデータベース)の利用について”『情報研究 関西大学総合情報学部紀要』15号 2001.9 p.95 ~ 130

The bluebook; a uniform system of citation. 17th ed. The Harvard Law Review Association 2000.

(閲覧参考課 ふじた けいこ)